

第2章 熊本市の食を取り巻く現状

1 くまもとの食の生産の現状

(1) 農林水産物の生産状況

本市では、自然に恵まれた環境と都市近郊という優位性を活かした良質な農林水産物の生産が行われています。農業においては、全国第2位の生産を誇るナスをはじめ、野菜、米、花き、畜産など、地域の特色ある農産物が生産されています。

また、水産業においては、干満差の大きい有明海の広大な干潟漁場と沖合漁場において、熊本県の生産量の過半数を占めるノリ養殖業をはじめ、採貝業、小型漁船による網漁業を中心とする海面漁業が営まれています。

このような本市の農林水産物の生産の実態を消費者に広く知ってもらうことが必要です。

主要農産物の生産量の推移（産物毎の過去5年間の生産量）

(2) 農林水産物や特産品の振興

本市で生産される農林水産物の中には、地元での消費はもとより、九州圏内や広くは全国に向けて出荷され、知名度が高く好評を得ている産品も数多く存在します。このような多種多様な農林水産物の生産や出荷の進行に加え、本市では熊本城などを活かした観光振興や伝統的な食に関する地域資源を活用し、全国に発信していく取り組みを進めています。

このような観光地としてのイメージ向上や食料生産地としての信頼性確保のためにも、安全性や食育の面からの熊本の食文化の継承・育成や産品の振興に向けた取り組みが求められています。

くまもとの特産品・名産品（品名・説明）

2. 食の安全・安心の現状

(1) 食品営業施設と監視・指導の状況

本市は、市街地の中心部の繁華街を中心に多数の飲食店及び旅館が立ち並ぶ一方で、郊外には大・中規模な食品の製造業や流通拠点が集積しています。

本市では、年間の食品衛生監視指導計画に基づいて食品営業施設の立ち入り調査を行っています。

食品営業施設立入調査状況(平成23年)

(2) 食中毒の発生状況

過去5年間における食中毒も発生状況は、毎年件数にして1～3件、患者数にして14～164人で推移しています。

食中毒の発生状況(過去5年間)

(3) 食品苦情の受付状況

過去5年間の苦情の受付状況は、毎年155～253件で推移しています。

食品苦情の受付状況(過去5年間、H19～23年度)

(4) 食品の検査状況

本市では、年間の食品衛生監視指導計画に基づいて、市内を流通する食品や製造施設で製造される食品を中心に、主として収去(しゅうきょ)により、年間300検体を超える食品の安全確認検査を行っています。

食品の検査状況(業種別検査状況; 過去5年間、H19～23年度)

(5) 食品の安全・安心に対する関心や意識

食品の安全性について何らかの不安を感じている市民が依然として7割に上る結果となっています。

安全性について不安を感じること、およびその内容

3. 食生活の現状

(1) 家庭での食や健康に関する会話

食を通じたコミュニケーションは、食の楽しさを実感させ、人々に精神的な豊かさをもたらす重要なものですが、昨今、生活の多様化、一人暮らし世帯の増加等により、家族と楽しく食卓を囲む機会が少なくなりつつあります。

本市においても、家族で食や健康について「いつも話をしている」は19.2%、「時々している」は49.5%となっています。

家族間で食や健康に関する会話の有無（世代別の統計）

(2) 生活リズムの乱れと不規則な食事

朝食の欠食に代表されるような不規則な食生活が、子どもたちを含めて全国的に増加しています。

本市においても、13.2%の人が毎日は朝食を食べておらず、食べない理由は、「時間がない」「食欲がない」「食べるより寝ていたい」などとなっています。

1週間あたりの朝食を食べる頻度（20代、30代の男女別統計）

(3) 食の外部化

ライフスタイルの変化等に伴って、調理や食事を家の外に依存する状況が見られ、食品産業界においても、外食のみならず、調理済の食品や惣菜、弁当といった「中食(なかしょく)」の提供や開発が進んでいます。

本市の外食の頻度は、「月に2～3回」が31%、「月13回」が24.1%、「週1～2回」が18%、「ほとんどしない」が20.9%となっています。

よく利用する施設としては、「ファミリーレストラン」39.8%、「回転寿司店」38.5%、「そば・うどん店」30.8%、「ファストフード」24.0%などとなっています。

1か月の家計支出に占める食料費の割合(年度別)

1週間あたりの外食の頻度(世代別)

(4) 栄養の偏り

従来、日本には、米を中心として、一汁三菜で構成される「日本型食生活」が定着していましたが、近年、脂質の過剰摂取や野菜不足等の栄養の偏りが見られます。

本市における野菜の摂取頻度は、緑黄色野菜については、「1日1回程度」が39.5%、「1日2回以上」が22.0%であり、その他の野菜については、「1日1回程度」が41.6%、「1日2回以上」が25.6%となっています。

野菜の摂取頻度

(5) 食に関する関心や意識

「食育の言葉や意味」を知っている市民は、47.7%、「食育に関心がある」は、66.7%となっていますが、食育に関する行動や活動を実践している市民は、26%と非常に低い状況と

となっています。

食育への関心度、食育に関する行動や活動の実践度(20歳以上)

(6) 事業者における食育の状況

飲食店や食料品店は、単に商品を提供するだけではなく、食に関する情報を発信するばでもあり、大きな影響力があります。

本市では、食品を購入する際に栄養成分表示を見たことがある市民は、「毎回確認している」が40.2%、「時々確認している」が39.9%となっています。

栄養成分表示の認知度

(7) 食文化の伝承意向

本市においては、家庭の食事に伝統料理や郷土料理を取り入れている市民は、「よく取り入れている」が10.4%、「ときどき取り入れている」が38.9%となっています。

65歳以上の市民に、その伝承意欲を聞いたところ、80.7%の市民が「積極的に伝えたい」と回答しています。

伝統料理や郷土料理の伝承意向

(8) 地産地消

本市においても、「地産地消」の意味を知っている市民の割合は 69.9% となっていますが、購入の際意識している市民は、「いつの意識している」が29.9%、「時々している」が39.5%となっています。

地産地消の認知度

4 生活習慣病の現状

(1) 疾病の罹患状況

本市において、全医療費に占める生活習慣病の割合は、約〇割という現状があります。

医療費における生活習慣病の割合(男女別)

(2) 肥満とやせの状況

本市における、「適正体重に近づける心がけ」については、「適正体重を維持している」が26.7%、「適正体重に近づけようと心がけている」が38.4%となっています。

一方、自己申告によるデータから判断したBMIでは、〇〇%が肥満、〇〇%が低体重(やせ)となっています。

適正体重に近づける心がけ

5 食に関わる環境の現状

(1) ごみ排出量の状況

本市におけるごみの搬出量は年々減少傾向にあります。ごみ処理コストは、一人当たり 〇〇〇円の処理費がかかっています。

1人1日あたりのごみ排出量、家庭ゴミの1人1日あたりの排出量 (年度別)

(2) 食料廃棄に対する意識

本市において、ごみを少なくするための心がけを「いつも心がけている」市民は、31.4%、「ときどき心がけている」は、38.5%となっています。

ごみを少なくするため、作りすぎや買いすぎないような心がけ

(3) 「くまもとの水」に関する意識

本市では、飲料水を100%地下水でまかっています。市民が、食生活面で「くまもとしさ」を感じている市民は、〇〇となっており、その内容として〇〇の市民が「水がおいしいこと」をあげています。「良質な地下水が食材や料理のおいしさの基になっている」と思う市民は、〇〇〇〇となっています。

食生活で「くまもとしさ」を感じる事柄

